

歌集

十貫の梅

大内ユキノ

歌集

十貫の梅

大内ユキノ

視点社

歌集 十貫の梅

一九九四年二月十四日発行 限定一、〇〇〇冊

定価 三、〇〇〇円（本体二、九一三円）

著者 千 977 福島県田村郡三春町字尼ヶ谷十八番地

TEL 〇二四七（六二）二五六四

大内 ユキノ

発行所 〒115 東京都北区赤羽西二―二九一七

視点社 TEL 〇三（三九〇六）四五三六

振替 東京四―二九八六二

発行人 上村 としこ

印刷所 ㈱清菱印刷

製本所 ㈱東京製本

版 画川上澄生 資料 集 丘 告天子

野鳥カット 大門未希生（中二）校 関 敷地あきら

作曲 大西 進 編集・レイアウト 葵生川 玲／丘 告天子

落・乱丁は小社へお送り下さいおとり替えいたします

（A5判 活版印刷）

歌集
十貫の梅
目次

I
十貫の梅

桐の花匂ふ（自一九七四年
至一九七六年）

11

十貫の梅（自一九七七年
至一九八〇年）

37

沙羅双樹（自一九八〇年
至一九八二年）

67

安達太良の陽（自一九八三年
至一九八五年）

101

茸狩り（自一九八六年
至一九九二年）

127

II 落穂篇

一九六九年	セールスマン	153
一九七二年	写真機	153
一九七三年	牡丹雪	154
一九七四年	柿の渋抜く	155
	コスモス届く	156
一九七五年	三春・愛宕神社	157
	秋海棠	159

一九七六年	孫の連絡帳	161
	バイパス新平線	162
	裏白紙綴じ	164
一九七七年	桐若木	165
	二月の雛	166
	献体	168
	鳴子にて	168
	世田谷・道弘	168
	零余子飯	169
	外勤	170
	門	171
	雉子の卵	172
	文弥	173
	虹の架橋	175
	榛名神社	176

堅香子の花	177
伊豆・下加茂温泉	179

一九七八年

石工	180
コールテン	181
疎開の児	182
郡山・太田病院	183
今年の花	185
山芍薬	186
父の五十回忌	186
針鳴れり	188
日昏の灯	189
墓碑開眼	190
地震	192
空家	193
嫁の賜物	193

一九七九年

銀鼠の蓬	195
月光	197
無線機	197
夫再入院	200
兄の死	202
花ざくろ	202
亘くん	203
台風	204
杭打ち	204
一九八〇年	
蝉の殻	205
一九八一年	
古井戸	207
二齡の蚕	208
道陸神	209
三春・自由民権百年	210

一九八二年

遅霜……………211

駐車場を作る……………212

白山吹……………214

東北歌会……………214

一九八三年

十八年ぶり……………215

宮柊二先生……………216

秀子さん……………217

一九八四年

東京大雪……………218

四十九回目の結婚記念日……………219

宮邸の白梅……………219

玉紫陽花……………220

出水……………220

一九八六年

鶴の旅立ち……………221

鳥見膝掛け……………222

アメリカコハクチョウ……………222

下枝の博打石……………223

尾瀬……………224

福島空港……………225

ササクレヒトヨ茸……………226

安達太良の紅葉……………228

三原山噴火……………228

白根葵の女……………229

一九八七年

川鶉が渡る……………230

那須……………231

三光鳥……………231

兄弟揃ふ……………232

郭公の声……………235

福島小鳥の森……………236

一九八九年	
会津行	237
一九九〇年	
馬場尼ヶ谷通り	238
一九九一年	
九州の旅	239
一九九二年	
蛭狩り	240
渡航	241
かぼちゃ弁当	241
野鳥	242
ユキノの昔ばなし	245
大内ユキノ略年譜	248
編集後記	251

歌集

十貫の梅



I
十
貫
の
梅

桐の花匂ふ

(自一九七四年
至一九七六年)

一九七四年

コスモス短歌会入会

春浅き温泉の道ひとり来て日向に萌ゆる路の
臺を摘む

転勤の記念に賜びし朱の湯呑遠く相馬の友思
ひ居り

筒袖に桃割髪の児童なりき髪白くなり寂しく
老ひぬ

一九七五年

霜予報に牡丹覆おおひて見あげたる空に下弦の月
冴へてをり

軒先をのぞきてめぐる小鳥あり赤木の若芽匂
ふ真昼に

鍛冶屋の裏の畑で

羽音立て白きふくろをくはへつつ吾の頭上を
烏飛からすび行く

桐の花匂ふ真下の桑畑うなを耕うなひ終りし朝のすが
しさ